

427
5
263

森信時著

新撰弓術指南

發行所 神戸明道館

印刷堂入費 岡山康興生和堂

075467-000-8

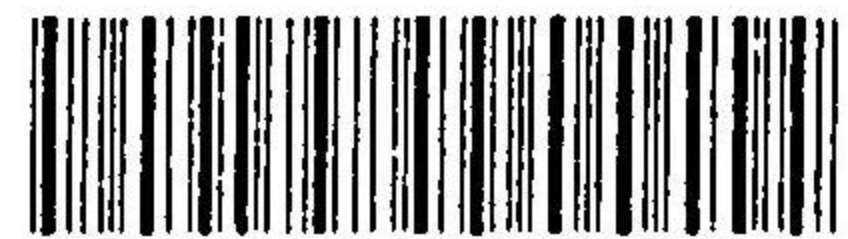
特23-129

新撰弓術指南

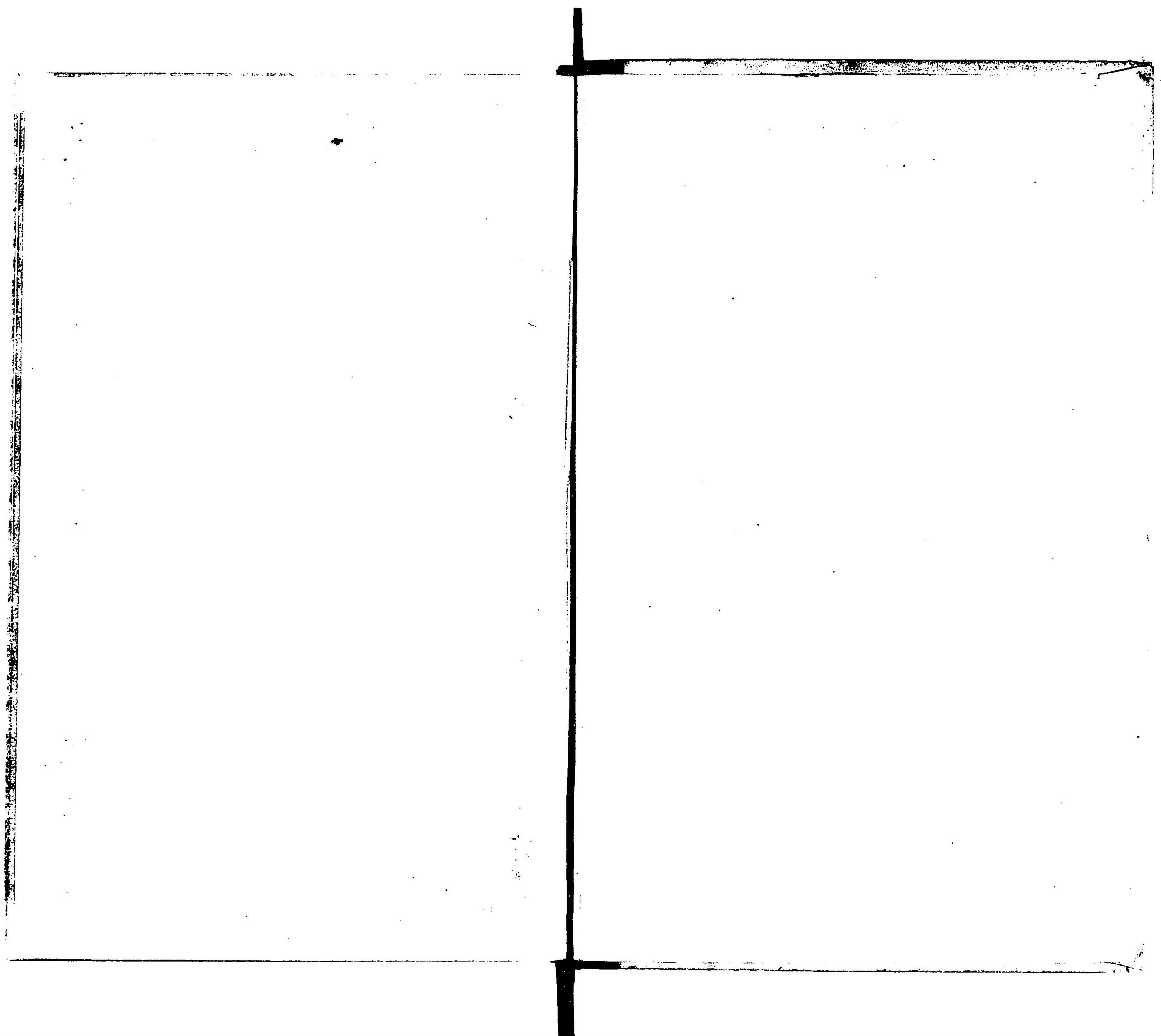
森 信時 / 著

M21

CEM-0405



1



No. 10661

序

予カ老友信時君森氏ハ舊備前藩ノ弓術家ニシテ其技

最モ妙チ極ク近頃一書ヲ著シ名ケテ新撰弓術指南

日ノ序ヲ予ニ屬ス予辭スルヲ得ス終ニ受テ之ヲ閱ス

ニ其說之所悉ク斯道ノ秘訣ニアラザルハ無ク通篇

悉到ニテ其才情明專ヲ命中ヲ以テ目的トシ毫モ古禮舊

儀大ニ開ケ弓法完ク廢ルト雖モ泰西諸邦ニ於テハ尙

ホ之ヲ探テ男女野外遊技ノ一ニ加フニ我邦ノ如キ

ハ野外遊技ノ種類ニ乏シク用テ保身ノ具ニ供ス

ルニ其才情明專ヲ命中ヲ以テ目的トシ毫モ古禮舊

儀大ニ開ケ弓法完ク廢ルト雖モ泰西諸邦ニ於テハ尙

ホ之ヲ探テ男女野外遊技ノ一ニ加フニ我邦ノ如キ

ハ野外遊技ノ種類ニ乏シク用テ保身ノ具ニ供ス



可モノ無ニ於テチヤ若夫レ廣ク之ヲ天下ニ及ボシ業
 餘消閑ノ技タラシムルヲ得ハ精神ノ爽快筋骨ノ強健
 其益スル所鮮ナカラズ異日我邦人ノ彼ノ爽快ト強健
 ナ以テ今日ニ誇レル泰西諸邦ノ人ナシテ後ニ瞠若タ
 ラシムルニ至ランユト敢テ難キニ非ス豈ニ壯ンナラ
 スヤ聊カ感スル所ヲ書シ以テ責ヲ塞クト云爾

紀元二千五百四十八年五月

子山樵夫識

凡例

- 一 新撰弓術指南ハ射場ニテ小的ヲ射ルノ法ニシ
 テ專ラ命中ヲ必要トシタレバ古式舊禮ノ如キ
 ハ畧シテ載セス
- 一 勝訓ヲ付シタルハ弓家ノ通語ニシテ字義ノ解
 ニアラズ譬へバ最前ヲ「オホマ」最後ヲ「オホオ
 ナ」ト云ガ如シ
- 一 遠矢射法高低射法ノ二項ハ小的射場ニ要用無
 キニ似タレト矢ノ的ニ達シ得サル如キ弱弓ニ
 適用セバ可ナリ仍テ卷尾ニ附記ス
- 一 本書ハ唯初心未熟者ノタメニ著スモノニシテ
 固ヨリ名人上手ニ示スガ爲ニアラズ看者幸ニ

諒焉

明治廿一年五月

著者謹識

新撰弓術指南目次

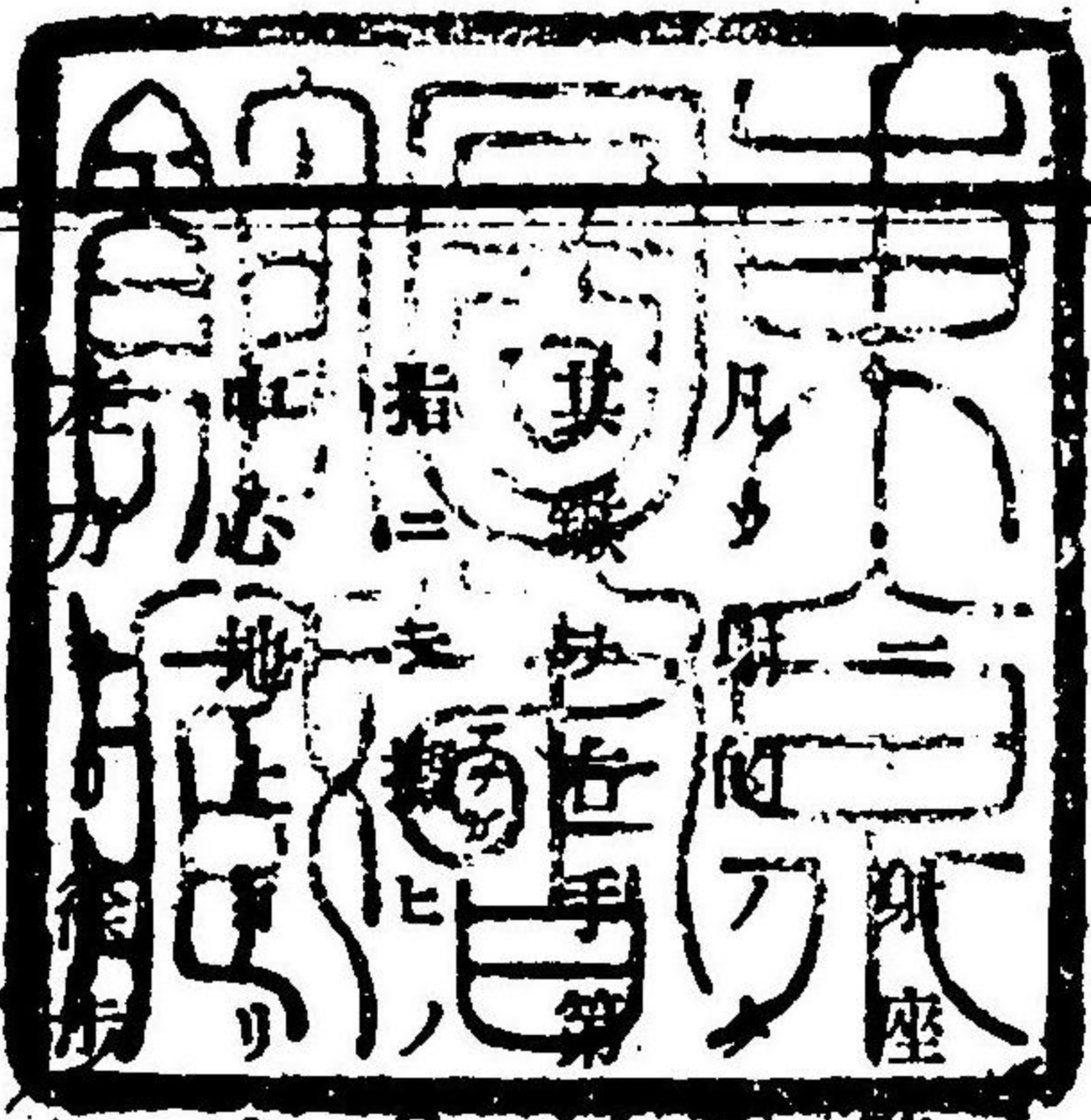
- 一 射座進行ノ法
- 二 的割ノ法并說
- 三 甲矢射法
- 四 乙矢射法
- 五 足蹈ノ法
- 六 體構ノ法
- 七 頤面ノ位置
- 八 執固ノ法
- 九 打起ノ法
- 十 張彎ノ法
- 十一 自放ノ心得

十二 矢番ノ法
十三 矢着ノ不定ヲ正ス法
十四 跪射ノ法
十五 弓返ノ心得
十六 牽手ノ心得
十七 押手ノ心得
十八 呼吸ノ心得
十九 颯ノ心得
二十 弓力強弱ノ心得
廿一 矢束ノ心得
廿二 遠矢射法
廿三 高低射法

已上

新撰弓術指南

森 信 時 著



進行ノ法

凡ク射座ニ進行スルノ法ハ甲乙ノ二矢ヲ揃へ
 其ノ後射座ニ進行スルノ法ハ甲乙ノ二矢ヲ揃へ
 四五ノ両指ヲ以テ掌中ニ握リ第一二三ノ三
 節ヲ執リ弓ヲ前ニ臥セテ携へ上弦ヲ前躰ノ
 高ク六寸ノ位置ニ保テ射家數人ナレバ順次
 左ノ膝側ニ納ム

○己ニ射座ニ到ルトキハ吾ガ正當ノ座位ニ於テ射座ノ中
 央ニ梁的ヲ左リ方ニ見テ斜ニ望ンテ併足直立シ左足ヲ五

寸退ヒテ跪キ右足ハ其儘屈シテ膝頭ヲ少シ浮ケテ恰好ノ位置ヲ定メ弓ハ下頭ヲ右膝頭ノ外ト斜ニ三寸隔テ眞直ニ押立テ而テ左肩ヲ脱キ左手ヲ帶上ニ納メ以テ的割ノ時ヲ待ツベシ

二 的割ノ法并説

○前項ノ如ク右手ニ執リタル弓ヲ目通リエ斜ニ捧ケ下頭ヲ架的ノ正面ニ向ケ左手ヲ伸シテ矢摺藤ヨリ撫テ降ス心持ニテ附ノ程好キ處ヲ弦ヲ弓返リシタル形ナノ如ク手ノ外側ニアテ、握リ換ヘ右手ハ放シテ其ノ持ナタル二條ノ矢ノ羽ノ方ヲ後高ニナシ拇指ヲ右股ニ當テ構ヘ全時ニ架的ヲ望ミ左腕ヲ伸シ弓ヲ架的ノ正面ニ押シ宛テ以テ狙ヲ定ム○狙終レバ弦ヲ前面ニ振戻シ左膝前へ突立テ而シテ

右手ニ持ナタル矢ノ甲乙ヲ見別ケ先ツ甲矢ヲ番ヒ次テ乙矢ヲ逆羽ニ轉シ左手ノ第四ト五指ノ間ニ挿ミ射付ノ節ヲ等關ニ當テ持ナ副ヘ右手ハ屈シテ帶上ニ納ム

○抑モ射座ニ進ミ矢ヲ射ルノ前ニ於テ必ず的割ヲナスノ故ハ第一架的ノ位置如何第二射座ト架的ノ高抵如何第三最前ヨリ最後ノ的ヲ射最後ヨリ最前ノ的ヲ射ルトキハ其足踏如何第四矢道支障ノ有無如何第五人畜等ノ突然矢道ニ出ルノ掛念有無如何等總テ豫メ其體ノ規矩ヲ定メ其心ノ平和ヲ全フセンガ爲ニシテ敢テ虛禮空式ノ類ニハ非ラザルナリ

三 甲矢射法

○右手ヲ以テ等關ノ下凡七八寸ノ處ニ於テ弦ヲ持ナ身ヲ

起シテ射座ニ立テ左足ヲ胴木ノ内側ニ確ト踏ミ出シ之ヲ定礎トシテ右足ヲ右ニ開キ的割ノ時ニ於テ豫メ覺悟スル所ノ地位ニ踏止メ右手第四五ノ二指ニテ乙矢ノ鏃ヲ握リ直ニ執リ固メテ爲シ架的ヲ望テ打揚ケ充分ニ引絞リ無心ノ間ニ放ル蓋シ放レハ自然ニ任ス

○凡ソ射ニ甲矢一條ヨリ貴キモノハナシ如何トナレバ若シ之ヲ射損シルトセンカ活物ヲ以テ的トスレバ再ヒ乙矢ヲ番フノ迫ナク或ハ僅ヤソノ迫アリトスルモ弦マダ時アツテ切斷スルノ患アリ殊ニ夫ノ古ヘ軍陳ノ如キ我レ敵ヲ斃カレバ敵我ヲ斃サン故ニ尋常射的ト雖モ常ニ矢ハ必ス甲矢一條ヨリ他ニ無キモノトノ覺悟ナクンバ遂ニ意外ノ失敗ヲ取ルモノナリ謹ムベシ

四 乙矢射法

○乙矢射法ハ甲矢射法ニ異ナル所ナシ只之ヲ射ルニ甲矢ノ射着ニ注意シ一層鄭重ヲ加ヘ以テ必中ヲ期スベキナリ

五 足踏ノ法

○足踏ハ前ニモ云ヘル如ク左足ヲ以テ定礎トシ右足ハ宛モ舟舵ト心得姿勢ニ指タル故障ナキ射家ナレバ尋常矢束ノ寸法ニ均シク踏開クベシ蓋シ踏樣ハ左足ノ大指ハ鏃ト齊シク右足ノ大指ハ筈ト齊シキガ故ニ架的ト左足ト右足ト三ツハ恰モ準繩ヲ引タル如ク一直線トナルヲ以テ正格トス○又最前ヨリ最後ノ的ヲ射ルニハ右足ヲ前ニ踏ミ○最後ヨリ最前ノ的ヲ射ルニハ右足ヲ後ニ踏ムベシ是或ハ前ニ云ヘル三所一直線ノ法ヲ守ラハ別ニ必要ナキニ似タ

リト雖正自由ニ其足踏ヲ變ズル時ハ自家ノ姿勢前後ノ射
 手射場ノ構造等ニ對シ往々介意スル所ナキヲ免レズ而シ
 テ如此足踏スレバ何等ノ支障ト雖正復タ敢テ妨トナラザ
 ルヲ以テ之ヲ法トス○マダ矢ノ上ルトキハ足踏ヲ狭クシ
 ○矢ノ下ルトキハ廣クシ○前ニ切ルレバ右足ヲ後ニ踏ミ
 ○後ニ切ルレバ前ニ踏ミ○左肩高キハ廣ク踏ミ○低クキ
 ハ狭ク踏ム○總テ右足ニハ跟底ニ力ヲ用ヒ左足ニハ大指
 ニ力ヲ入ル若シ能クコレ等ノ法ヲ記憶セハ復タ遺憾ナカ
 ルベシ

六 體構ヘノ法

○内正外直ハ射家ノ通法ニシテ姿勢外ニ端直ナルモ心志
 内ニ穩正ナラザレハ絶テ命中ハナキモノナリ矧ヤ心姿兩

ナガヲ正直ナラザルニ於テチヤ注意スベシ○譬ハ體ハ
 建柱ノ如ク垂直ニ起テ腕ハ貫木ノ如ク水平ニ張ルコト
 勢正格ニシテ○前ニ掛レハ矢後ニ切レ○後ニ反レバ矢前
 ニ切レ○左手ニ傾ケハ則チ下リ○右手ニ退ケハ則チ上ル
 故ニ躰ハ必ス直立スベシ

七 頭面ノ位置

○頭ノ位置ハ的ノ方ヨリ呼ブモノアリ之ニ向テ應ト符フ
 ル姿ヲ法トス○面上ニ向ヘバ矢降り○面下ニ向ヘハ矢越
 ス○前ニ向ヘハ前ニ放レ○後ニ向ヘハ後ニ放ル○故ニ些
 ノ工夫ヲ用ヒズ無心ニシテ的ヲ見ル様注意スベシ

八 執固メノ法

甲矢射法ニ云ヘル如ク他ノ準備整フタル上執固メヲナス

ニハ○先ツ右手ハ矢筈ヨリ一寸許下ニテ鞞ノ弦道ニ筈關ヲ合セ第三指ヲ其帽頭ニ冠ラセ第二指ヲ上ヨリ輕ク掛ケ添へ摺上ケテ筈ヲ第二指第一節ノ横邊上部ニ輕ク捻リ止メ○左手ハ弓ノ左リ内隅ヨリ他ノ三隅ニ掛ケテ握リ第二指ハ外ヅシ第三四五ト順次ニ締メ込ニ最後ニ第一指ヲ締メ込ム但シ掌中ハ恰モ一顆ノ雞卵ヲ插ミタルカ如ク毫モ力ヲ入ルベカラス○各指締メ方ノ度ハ第一ニ第五指次ニ第三指次ニ第四指ニシテ大指即第一指ハ四指ノ中最モ力ヲ用ユベシ如何トナレバ第一指ノ締リ足ヲザルトキハ躰構へ其他折角ノ注意モ爲ニ水泡ニ属スベケレバナリ

○如斯雙手ノ執リ固メ完ク整ノへバ直ニ梁的ヲ望ンデ打起スベシ而シテ射終リタル後ハ果シテ矢ノ何處ニ着シヤ

確然見認ルニアラザレバ輒ク他ヲ願ルベカラス

九 打起ノ法

○前項ノ如ク執リ固メ準備整へバ毛髮ノ間ニ打起スベシ

○左手ハ第一肩第二臂第三握リニ力ヲ入レ腕ノ伸ビン限リ之ヲ伸バシテ打上ゲ○右手ハ之ニ準シ臂ヲ張り手先ノ屈曲セザル様高ク打上ゲ○變腕ノ擎グル所弓ハ五拾斤ヨリ重ク矢ハ一百斤ヨリモ重ク○矢ハ射付ノ節ノ前端ニ其重ミヲ持タセ平頭ノ輕キモ毎ニ古へ大雁股ノ上指ヲ射ルガ如ク思フベシ

十 張弓ノ法

○弓ヲ打起シ來ルトキ少シモ馳メズ左手ハ的中ニ割リ込ム心持ニテ和ヲカニ張り右手ハ左手ノ押スニ隨ヒ頭上ヨ

リ弦ヲ引被ル如ク脉ヲ弓弦ノ間ニ容ル、心持ニテ彎クメ
シ而シテ充分狙ヒ定マルトモ敢テ發ツ心ヲ生ズベカラズ
唯雙手ノ力ノ能ク續カン限リハ之ヲ押シ之ヲ曳キ且專ラ
兩脚ノ膝左足ノ拇指右足ノ跟底左手ノ肩臂右手ノ拇指等
各要部ニ心ヲ用ヒ姿勢ノ上ニ満足ヲ得バ矢ハ一日ノ中僅
ニ一條ヲ射ルモ可ナリ只放レハ自然ニアリ我レヨリ決テ
發ツベカラズトノ用意アルベシ

十一 自放ノ心得

○張彎ノ間夢ノ如ク自然ニ放レテ飛行スル矢ハ必ス命中
セザルユトナキモ求メテ之ヲ發テバ決テ中ラズ故ニ之ヲ
自放ト云ヒ發射ト云ハズ支那ノ弓法ニ準チ定メ可キ見テ
發ツトアルハ軍陣ニ用ユベシ射的ニハ適セズ注意スベシ

○前ニモ云ヘル如ク矢ハ放レテ中ヲザルユトナク放シテ
中ルユトナシ且ツ如斯矢ノ發放ニ注意シタル上ハ仮令甲
矢ヲ射損シタリトモ早ク乙矢ヲ射テ其敗ヲ償ハント圖ル
ベカラズ若シ些ニテモ此心アリタラシニハ甲矢ヲ射ル自
ラ粗トナリ乙矢ヲ射ル常ニ遠トナリ到底命中ハ期シ難キ
モノナリ蓋シ粗ト遠トハ射的ノ法ニアラザレバナリ

十二 矢番ノ法

○矢ノ甲乙ヲ問ハズ矢ヲ摺藤ノ下端附革ノ上端ニ矢ヲ當テ
管ヲ水平ニ管鬮ニ掛ケ執固メチナシ弓ヲ張リタルトキ矢
ヲシテ附革ノ上部ヲ摺ラスル様ニスレバ管ヨリ鏃へ水流
レトナル是ヲ正格トス如何トナレバ弓ノ手下ハ短クシテ
強ク手上ハ長クシテ弱キヲ以テ如斯鏃ヲ鏃下リトナシ矢

管ニ力ヲ入ル、チ最上ノ鈞合トスレバナリ

○弓ノ形状ニヨリ矢行ノ鈞合ヲ正フスル最モ必要ナリ
○弓ノ手下強キニ過クレバ矢下ル故ニ管ヲ下ケテ番ヒ其手下弱キニ過クレバ矢上ル故ニ管ヲ上ケテ番フ之ニ反シ弓ノ手上ノ強キハ上リ其弱キハ下ルヲ以テ矢番ハ前ノ例ニヨツテ之ヲ上下シ且甲矢ノ上下ニヨリ乙矢ノ管掛ヲ上下スル等ノ注意モ亦肝要ナリトス

○矢ノ射付ケ重キハ下リ輕キハ上ル是亦矢番ノ上下ニ注意スベシ

○管關ニ朱墨等ニテ目標ヲ付シ又「カグリ」ト稱シ塗弦等ノ如キ圓キ玉ヲ付クルガ如キハ最モ見惡シ矢番ヒハ平素手心ニテ出來ル様豫メ注意シ置クベシ

十三 矢着ノ不定ヲ正ス法

○矢着ノ不定ヲ正スニ其法種々アリ左ノ如シ

○矢越エタル時 足踏ヲ狭クシ頭ヲ少シク右方ニ仰向ケ矢管ヲ上ケ臂ヲ高クシ左手ノ小指ヲ緊ク締メ體ヲ右方ニ引付ケ左脚ニ力ヲ入レ上押スベシ

○矢ノ下リタル時 足踏ヲ廣クシ頭ヲ少ク左方ニ屈シ矢管ヲ下ケ臂ヲ低クシ押手ノ中指ヲ締メ體ヲ左手ノ方ニ傾ケ右脚ニ力ヲ入レ下押スベシ

○矢ノ前エ放レタル時 右足ヲ前方ニ踏ミ出シ頭ヲ後エ向ケ弓ヲ前へ伏セ引手ノ捻ヲ輕クシ體ヲ少シ後へ向ケ左手無名指ヲ強ク締メ右臂ヲ上クベシ

○矢ノ後へ放レタル時 右足ヲ後方ニ踏ミ頭ヲ前へ向

ケ弓ヲ直クシ右手ノ捻リヲ強クシ體ヲ少シ前へ向ケ
右臂ヲ下グベシ

○弓ノ附前へ出デタルハ矢後ニ放レ其後へ入りタルハ矢
前へ放レ矢端小ナルハ前へ放レ矢端大ナルハ後へ放レ
弦ノ太キハ下リ弦ノ細キハ上リ心ノ弛ミタル時ハ前へ
放レ心ノ逸テタル時ハ後へ放ル矢束ノ引キ足ヲサレハ
前ノ下へ放レ其引キ過キタルハ後ノ上へ放レ放ツ時右
手弛メバ前ノ下へ放レ其力ノ入り過ギタルハ後ノ上へ
放レ早ク放レハ前へ放レ遅ク放レハ後へ放レ又發
放ノ際瞬キスレバ多クハ矢後口へ放ル、者ナレバ此等
ノ件々豫メ注意スベキナリ

十四 跪射ノ法

○跪射ハ立射ト異ナル所ナシ唯タ乙矢ヲ右手ニ持タズ膝
前ニ置キ腰ヲ立テ射ベシ膝ハ必ズ左右ヲ併接スベシ且立
射ノ足踏ニ代ルニ右膝ニテ鈞合ヲ取り矢着上レバ右足ヲ
伸バシテ之ヲ前へ踏ミ出スベク矢着下レバ左右ノ膝頭ヲ
近接スベシ但立射ノ如キ著シキ功驗ハコレナキモノト知
ルベシ

十五 弓返ノ心得

○弓返リハ好シテ之ヲ爲スニ非ラズ彈力ノ餘自然ニ返ル
モノナレバ毫モ命中ニハ關係ナキ者ナリ左手ノ第二指ヲ
握リ込メバ弓返リセズ此握リ方ハ弓ヲ取落サヌ爲メニテ
夫ノ鉄板若クハ木板ノ如キ堅牢ナルモノヲ射貫クニハ古
來此ノ法ヲ用ユルノ習アリ

十六 牽手ノ心得

○右手ヲ牽手ト云ヒ總テ放レノ後押手ノ鈞合ニ應シ一文字ニ射開ク可キナリ高ク切り低ク切り又ハ放レノ儘ニナシ置クガ如キハ正格ニアラズ求メテ之ヲ爲ス者アラバ何カ心ニ工夫スル所アルモノト知ル可シ

十七 押手ノ心得

○左手ヲ押手ト云ヒ第二指ヲ除クノ外肩ヨリ指頭ニ至ルマデ充分力ヲ入レ執固メテヨリ放レノ後矢着ヲ見届ケル迄毫モ撓マズ且ツ放レノ後上リ下リ無ク押手ヲ一文字ニ射開クヲ法トス放レノ後早ク手前ニ引キ付ケ又ハ突キ下グルガ如キハ或ハ故障アルヲ補ハンガ爲メニスルユトアルモ曳手トハ違ヒ最モ不可ナリトス

十八 呼吸ノ心得

○打起シノ際呼吸ヲ引込弓ヲ引キ分ル時呼吸ヲ誥メ心ヲ下腹ニ収メ張彎充滿ノ末ニ放レテ始メテ呼吸ヲ發スル者ナリ但シ其呼吸ハ傍人へ聞へザルヲ以テ度トス

十九 視ノ心得

○弓ハ銃砲ノ如キ器械ニアラザレバ其視ヒハ唯心ノ規矩ニ由ル故ニ是レカ定準法ヲ明解スルコトハ甚々難シト雖モ初メ弓ヲ的ノ前肩ヨリ打起シ張彎ニ從ヒ漸時的緣ヨリ其中央ニ押下シ來ルノ際矢ノ求メズシテ放ル、ヲ視人本旨トシ初メヨリ的ノ正面ニ矢ヲ着ケテ視フハ不可ナリ
二十 弓力強弱ノ心得

○弓ハ自家ノ力ニ適シタル者ヲ需ムヘシ強キ者ヲ曳ケバ

放レ充分ナラズ亦弱キ者ヲ曳ケバ放レ遅鈍ナリ且弓力ハ
冬季ハ強クシテ夏季ハ弱キモノナリ注意ス可シ

廿一 矢束ノ心得

○ 矢束^{ヤヅカ}ハ弓ノ弱キハ多ク曳キ得ヘシト雖正強テ之ヲ曳ケ
ハ却テ弛ミヲ生スベシ故ニ矢束ハ其長カヲソヨリハ寧ロ
其短キヲ可ナリトス

廿二 遠矢射法

○ 遠矢射法ハ尋常射的ニ異ナル所ナシ唯規ヒ定マル後矢
ノ届クベキ度合ヲ量リテ乘リヲ取り且通常ノ矢束ヨリハ
一寸モ引込ム心持ニテ放タバ可ナリ

廿三 高低射法

○ 高キ所ヲ射ルニハ右膝ヲ突キ左足ヲ踏立テ低キ所ヲ射

ルニハ左膝ヲ突キ右足ヲ踏ミ立テ、射ルベシ又尋常射的
ニテ的ノ位置低キハ足間ヲ狭ク踏ミ其高キハ足間ヲ廣ク
踏ムベシ

明治十一年六月十三日出版御用
同 年 月 日

版權登錄

定價八錢

著者 兵庫縣士族 森 信 時

兵庫縣神戶區兵庫
北宮内町三十四番地

發行者 滋賀縣平民 目 加 田 榮

兵庫縣神戶區多聞通二丁目
百五十一番地寄留

印刷者 兵庫縣平民 安 岡 竹 三 郎

兵庫縣神戶元町五丁目
全 寄 留

弘通所 船 井 弘 文 堂

大坂心齋橋通本町北ノ入ル
中 村 三 史 堂

同

大坂備後町四丁目 吉 岡 平 助

東京日本橋通三丁目 丸 屋 善 七

京都東洞院三條上ル 村 上 勘 兵 衛

備前岡山東中山下 大 嶋 勝 海

肥後熊本新町二丁目 長 崎 次 郎

同 同 同 同 同



